



👜 バッグの他にベルト、革紐、財布なども売っている。



HATA

京都市中京区寺町通竹屋町上ル藤木町18-8

☎075・213・2320

🕒10:00AM~7:00PM

水曜休



個人の容量。

使うために作られる使える鞆。

「かたちはいいけど、色がちょっと」「もう少し大きいサイズが欲しい」「ブランドマークと飾り金具が邪魔」人の好みは千差万別。1000パーセント満足出来る鞆に、そうそう出会えるものではない。だからこそ、この店の登場が嬉しい。

これまで鞆の製造、卸をしていた店主による、オリジナルバッグの直売店「ハタ」。この名前は店主秦氏の名字そのまま。氏はこの場所で、ひとりデザイン、製作、販売をする。

「どんな鞆も一枚の革で作ります」

見た目の美しさに加え、縫目が少ない分、傷みも少ないという利点。

少しでも傷のある革は使いものにならない。贅沢なポリシーである。しかし、長年鞆を作ってきた氏の哲学では、ごく当り前のことなのだろう。

「店にある商品のアレンジや、まるごとのオーダーも受けてます。ただ、たくさん注文が入っているので少し待っていただかないといけません」

オーダー受注は現在売上の約半分。定番の型はすでに50数種にのぼる。「オープンしてまだ少しですが、いまのところ苦情は聞いていません。アフターケアは万全です。とりあえず10年は持っていたきたい」使う程に好きになる。ここで巡り会った鞆は、本当にそんな鞆になりそう。

大バッグ39,000円、リュック26,500円、ショルダーバッグ17,000円、スリッパ8,000円。



向いに中南米雑貨を扱う同系列店が。営業時間は同じ。



エル ラティーノ

京都市左京区熊野神社前 ハンズート日生ビルB1

☎075・751・0647

営5:00PM～0:00AM(終わるまで)

無休



サルー! 陽気な宴を。

毎夜毎夜に盛り上がる熱い国の熱い夜。

サルー!これはメキシコで、乾杯をするときに使う言葉。サルーとは健康という意味。そしてクシヤミが健康の証だとされるメキシコでは、誰かがクシヤミをすると周りの人間がサルー!と声をかける。クシヤミをした当人はこれにグラッシアスと礼を述べるそう。

そんな陽気なメキシコの空気が充滿した店、エル ラティーノ。メキシコ料理を中心にした中南米料理とラテン音楽。料理はメキシコ人スタッフが母国の味を忠実に再現。素材から調理法まで、メキシコのそれそのまま。また、この店には外国人客が多い。主な要因は陽気なラテンノリにあるが、たっぷり飲んで食べて、ひとり2000円程度といった良心的プライスによるところも大きい。

鶏肉をトルティージャ(ふやかしたトウモロコシを練って焼いたもの)で包んだエンチラーダ780円、アボガドクリームをチップスに付けて食べるヴァカモレ500円、中南米料理ではないが、辛い料理の後にパッチリと合うヨッチーズケーキ300円。そして、舌触りの良さについて杯を重ねてしまうが、後でひどい目に合うフロズン マルガリータ450円。料理にはメキシコ料理に欠かせないサルソースをたっぷりつけて楽しもう。

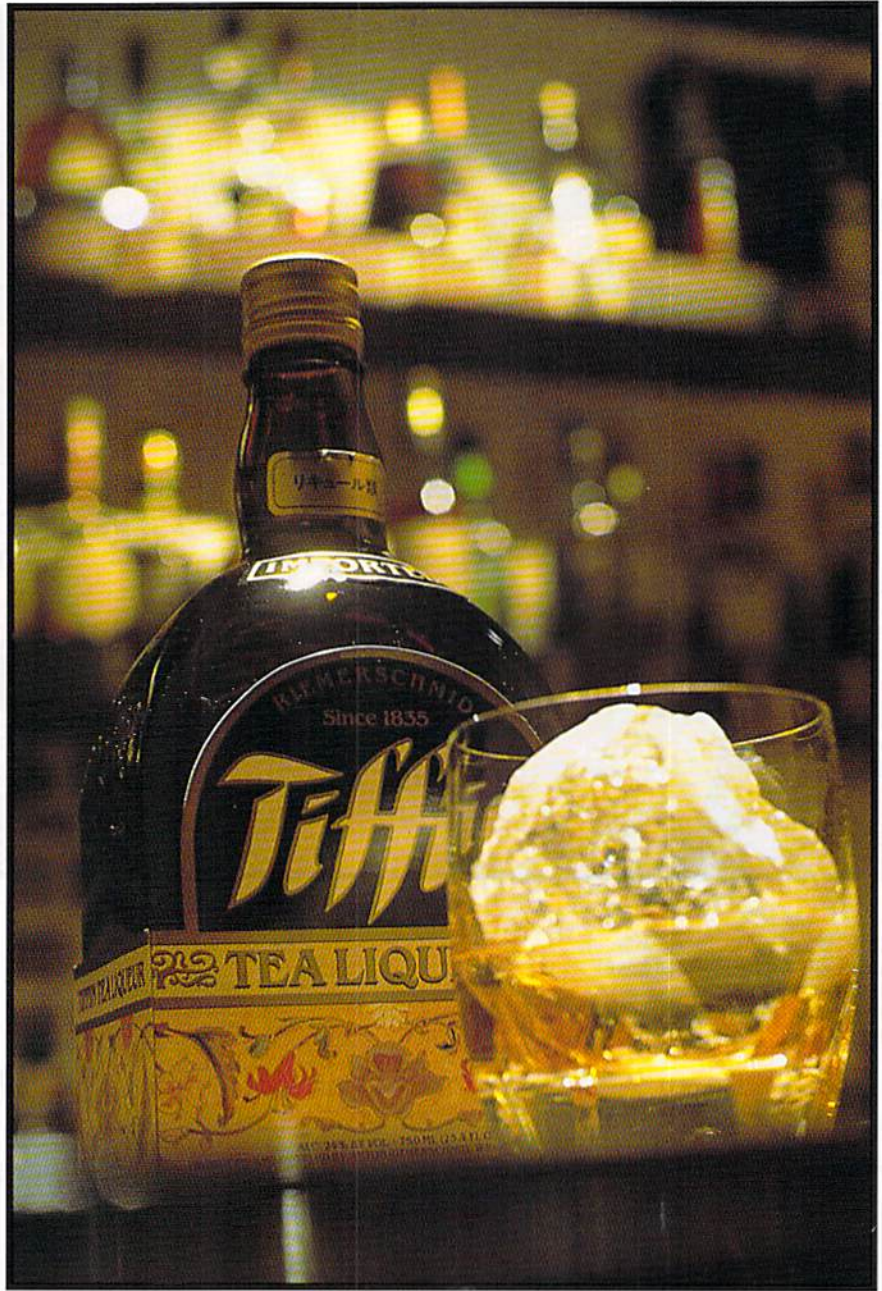
予告なしにいきなり生ギターなどライブが行われることもある。チャージ不要。



その名もBar。扉には鍵がかかっている。来意を告げて乗り込もう。

Tiffin(ティフィン)
750ml/¥4,000/24 (22%)

琥珀の輝きは、鼻惑の香り
移ろいやすい紅茶の香りをそっと閉じ込めた、
優雅であえかなりキユール。ピロートの夜の始まりを告げる。



Bar
京都市中京区先斗町九番路地
☎075-223-6671
営8:00PM~2:00AM
水曜休 チャージ1000円



透明な氷のかたまりを、グラスのなかでそっと転がす。ちりちりと涼しげな、えもいわれぬ繊細な音に耳をかたむける。ていねいに砕かれた氷は、目に見えないぐらいたすこしずつほとびてゆき、濃淡のある時間が流れてゆくのがわかる。

ヨーロッパの食後酒として愛され続けてきたリキュール。あくまでも濃厚で、甘みやこく、アルコール度数も強い酒である。かれらは様々なリキュールをカクテル仕立てにせず、原酒のまま、あるいはロックでたしなむことが多い。ときには1時間もかけて、手のなかで転がしながら、なめるようにゆっくりと酒を味わう。それは芳醇な夜の時間そのものを味わうのに似ている。

ティフインは、ミュンヘンのリーマーシュミット社の製品。しみじみや、ほろほろは似合わない。紅茶のシャンパンとまでいわれる、ヒマラヤ高地産のダージリン紅茶が原料である。その香りと微妙な味わいの変化を楽しむためにも、ぜひヨーロッパ流でいきたい。王侯貴族の酒の楽しみになぞらえて、夜の時間をわがまま放題に、自分ひとりのものにするために。

先斗町の路地にあるBarには、そんな贅沢な時が封印されている。ふたつのドアにはさまれた階段の途中で、客のほうぐネクタイを直してしまおう。そんな店があってもいい。威儀を正して臨む場所である。